

# Order&Chaos -5-

10 / 02 / 09

---

都築つらね さん:  
こんばんは、お疲れ様です。  
生活ゲームで伺いました。

芝村 さん:  
記事どうぞ

都築つらね さん:  
記事: <http://cwtg.jp/ogasawara/wforum.cgi?no=5121&reno=5103&oya=5103&mode=msgview>  
こちらになります。

芝村 さん:  
イベントは?

都築つらね さん:  
オンサと色々と話をしてほしいのですが、最初に国の慰霊碑に行きたいと考えています。  
大丈夫でしょうか。

芝村 さん:  
大丈夫  
数分待て

都築つらね さん:  
はい、宜しくお願いいたします。

芝村 さん:  
/ \* /

オンサはつまんなさそうなふりをしている。  
ここは王城前だよ

都築つらね さん:  
なんていつも通り。  
ひょいと片手を上げつつ  
「おーい」

芝村 さん:  
オンサ: 「・・・なに？」

都築つらね さん:  
「まずは、久しぶり。」  
「それと。」  
(深く頭下げて)  
「ごめん、また待たせました。」

芝村 さん:  
オンサ: 「何それ・・・ああ」  
オンサは微笑みかけて、しまったという顔  
貴方の頬を引っ張っている

都築つらね さん:  
「ふん、いひゃ、ほんほにごへんはひゃい・・・」  
(苦笑しつつ)  
(あ、一応、うん、いやほんとにごめんなさい、です(笑))

芝村 さん:  
オンサは怒りきれずに、貴方の額にキスをした。  
オンサ: 「どうしたの、どこにいくの、何が目的？」

都築つらね さん:  
「うん。」(額をちょっと触りつつ)  
「まずは、慰霊碑に行きたいと思って。」  
「今日は、ちょっと相談に乗ってもらいたい。」

芝村 さん:  
オンサ: 「・・・どうせそういうことだと思った、歩きながら、話せる用件？」

都築つらね さん:  
「そだね、もやもやしてるから、歩いてた方が話しやすいとは思ってるから。」  
(そう言って、手を差し出しつつ、今回は先手で。)

芝村 さん:  
手を繋いで歩いている。  
オンサは、さりげなく貴方を見ている

都築つらね さん:  
こちらは上をちょっと見上げてから、目を合わせて。

芝村 さん:  
オンサはペーと、舌だしてる

都築つらね さん:  
うははと笑って。  
「おまえはほんとにわかってるよな。」  
可愛いったらありゃしない  
「・・・こないだの蜘蛛のこと。」  
「有難う、助かった。」

芝村 さん:  
オンサ：「やっつけたわよ、援軍なくても、勝てたかもしれない、無傷じゃいられなかったと思うけど」

都築つらね さん:  
「うん、俺の気が気でなくなるし、無傷で良かった。」  
「あれの意図はどこにあったと思う？」

芝村 さん:  
オンサ：「・・・んー」  
オンサ：「たぶん、試してるんだと思う」

都築つらね さん:  
「各国を切り崩せるか？・・・それとも各国を護り通しているか？」

芝村 さん:  
オンサ：「殺すのが目的なら、戦力を集中するはず、だから、殺すのとか、勝つとか、そういうのじゃなくて、別の理由の、戦争だ  
と思う」

都築つらね さん:  
「ふん・・・」  
(声を小さくしつつで)  
「正直測りかねてる、まわりくどいんだよな、なんか。」  
「敵意にしては、なんかおかしい気は、する。」

芝村 さん:  
オンサ：「緑はそういうものよ、回りくどくて、扱いに困る」

都築つらね さん:  
「うん、そうなんだけどね、ただ、なんっつか、それ以上の何か、っていうのかね。」  
「俺も、ほら、気が小さいから、ただ心配になってるだけかもしれないけれど。」

芝村 さん:  
オンサ：「その心配、重要・・・たぶん、封印者をさがしてるのかな」

都築つらね さん:  
「・・・封印者っていうと、アレ対策か。」(くるくる指を回して

芝村 さん:  
オンサ：「クーリングンの、封印して欲しいんじゃないかな」

都築つらね さん:  
「・・・ん、おっけい、有難う、ひとつ取れたよ。」

芝村 さん:  
オンサ：「封印の人は、どこにいるのかしら」

都築つらね さん:  
「思い当たる節は色々あるんだけどね・・・例の巫女の話も、まあそこらへん関係かもしれないとは、思ってたりはする。」  
周囲をちょっと見渡します、どんなところでしょうか、誰かいますか？

芝村 さん:  
慰霊碑の前だよ  
誰もいない・・・

都築つらね さん:  
んー。

芝村 さん:  
オンサ：「FVBIにいるけど、それが誰かは分からないの」

都築つらね さん:  
ちょっとオンサに目配せして、たぶん伝えようとしてるのはわかると思うので。  
#クーリーんめー  
「だから、か。」

芝村 さん:  
オンサは微笑んで、慰霊碑をぼんぼんと叩いた。  
さらにねじれた。

都築つらね さん:  
きゃーwww  
「・・・喜ぶの？これは、喜んでくれるのかしら？」（なんか亡くなった皆さん申し訳ないと思いつつ、暫し黙祷します  
すんませんすんません

芝村 さん:  
オンサは少し微笑んだあと、またねといって離れた。  
びよよんと戻った。

都築つらね さん:  
「はい、有難う。また今度。」  
ちょこたのしみにしてるーとかいえないじぶんがうらめしい  
「・・・さってとう。」

芝村 さん:  
オンサ：「？」

都築つらね さん:  
（あ、オンサが自分から離れた、ではなくて、慰霊碑から離れた、ですかw

芝村 さん:  
ええ

都築つらね さん:  
「ん、いや、何でも無し。」  
（はっはっは、と韜晦しつつ  
「そっちは先方に伝えるとして・・・」

芝村 さん:  
オンサは貴方の頬をつんつんつついている  
オンサ：「うん」

都築つらね さん:  
はっはっは（テンプレ通りの笑み  
巫女繋がりで、西條さんところのお二人、最近、知ってることは無い？」  
プラスして  
ちょっと、口パクで  
ヤバイナライウナ とやりつつ。

芝村 さん:  
オンサ：「？ 知ってるけど」

都築つらね さん:  
「んー・・・なら、大丈夫か。」  
いや、クーリン知らないなら言うのヤバいかなとは思いますが。  
「無事？そこだけでも聞きたい。」

芝村 さん:  
オンサ：「無事そうよ、ドラゴンが、護ってる見たい」

都築つらね さん:  
「つくづく頭上がらなくなったなあ・・・」（有難うございます有難うございます  
すげえボディガード、うわあ・・・  
「いやほんとに、こっちで何もできないまま時間ばっか経過しちゃってね。」  
orz

芝村 さん:  
オンサ：「まあ、ドラゴンの考えてることは、私にも分からないから」

都築つらね さん:

「うん、それは、こっちで聞いてみるよ、有難う。」

「・・・それと、これが、最後なんだけれど。」

芝村 さん:

オンサ: 「うん」

都築つらね さん:

ふう、と息を整えてから

「・・・民族不和、と俺らは呼んでる。」

芝村 さん:

オンサ: 「うん」

都築つらね さん:

「あれからまあ、もう長い・・・とかいう前置きは、もうこの際良いね。」

芝村 さん:

オンサ: 「まだ、どこかで？」

オンサの表情が曇った

都築つらね さん:

「いや、最近大きな話は聞いてないんだ。」

「ただ、別れたままで、ずっとそのまま、それで良いのかどうか、正直悩んでる。」

「このまま時間が解決してくれるのを待つと言うのも、手かもしれないけれどね。」

芝村 さん:

オンサ: 「難しいね・・・」

都築つらね さん:

「うん・・・まだ俺が前の国で藩王やってた頃みたいな、危なくなったら相手の国にかけつけるみたいな、そんな昔がね、ちょっと懐かしいんだわ。」

芝村 さん:

オンサ: 「都築系の人が、今、よんた国で帰還事業をしてるみたい」

都築つらね さん:

なきたくなってきた！

「・・・都築系全体からの評価は？」

「評価、っていうとよそよそしいな・・・皆どう思ってる？」

(悪い癖だわと苦笑いしつつ)

芝村 さん:

オンサ: 「賛成もあるけど、反対もある、反対の方が多いかな」

オンサ: 「でも、私は偉いなあと、思ってる」

都築つらね さん:

「だろね・・・あー、あほうだなあ、俺も。」

芝村 さん:

オンサ: 「？」

都築つらね さん:

「ずっとさ、何にも決めないうちに、時間ばかり過ぎていくなあとと思ってね。」

芝村 さん:

オンサ: 「そうね、でも、第七世界人主導でやるのも、変じゃない？」

都築つらね さん:

「それもそうなんだけど、ん、んー・・・そこも悪い所か。」

「全部俺一人でやっちゃおう、ってさ。」

芝村 さん:

オンサ: 「今だってできてないんだから、気負わないでも」

オンサは笑ってる

都築つらね さん:

「ですよー」

うっはっはと笑いつつ、でもまあ、目だけはちょっとマジで、

「さーてとう。」

芝村 さん:

オンサ: 「？」

都築つらね さん:

「都築系の帰還事業やってる人ら、国の中に事務所みたいなところ、持ってる？」  
「集会所でも、関わってる人がいるところでも。」

芝村 さん:  
オンサ：「うん、知ってる」  
オンサは貴方に変な形のメモ帳を渡した

都築つらね さん:  
メモ帳に手を乗せつつ、  
「それと・・・今から、行ける？買い物してから、オンサへのお礼と、その人らにちょっと差し入れもしたい。」

芝村 さん:  
オンサ：「・・・」  
メモ帳がべよよんと尾本に戻った。  
オンサ：「言い方したいかなあ・・・」

都築つらね さん:  
「おまえはほんとうにかわいいよな！」（ぜんりょくでさげんだ！  
「デートしようぜ。」

芝村 さん:  
オンサ：「・・・うん」  
オンサは少し微笑んだ

/ \* /

はい、お疲れ様でした

都築つらね さん:  
お疲れ様でしたー  
最後までいい言葉あったかなーと思いつつ、今の自分の全力でした

芝村 さん:  
いいんじゃないね。

都築つらね さん:  
はいw

芝村 さん:  
評価は+ 1 + 1でした。秘宝館には1 , 1で依頼出来ます。

都築つらね さん:  
了解しました。有難うございます。

芝村 さん:  
では解散しましょう。お疲れ様でしたー

都築つらね さん:  
はい、重ねて有難うございました。  
お疲れ様でしたー

---

---